

平成29年度版 交通事故の実態

H28.04～H29.03



神奈川県自動車交通共済協同組合

<http://shinkokyo.or.jp/>

平成 29 年度版「交通事故の実態」の発行にあたって

当組合は、交通事故の防止を最重要課題として取り組んでいます。

平成 28 年度は組合員の交通事故の発生実態を踏まえ、次の通り交通事故防止重点項目を掲げ、組合員の理解と協力のもと、交通事故の防止に向けた取り組みを行いました。

- 追突・後退事故の根絶
- 交差点事故の根絶
- 構内事故の根絶

その結果、対人共済では 447 件（前年度比 16 件減）、搭傷共済では 10 件（同 2 件増）、対物共済では 1,645 件（同 28 件増）、車両共済では 118 件（同 1 件増）となりましたが、主力の対人・対物共済で高額賠償事案が減少し、事業利益が改善されました。

ここに、平成 29 年度版「交通事故の実態」として、平成 28 年度の交通事故の発生状況を統計資料として公表いたします。

組合員の皆様におかれましては、一件でも交通事故を減少させるため、事業所の交通事故防止活動にご活用いただければ幸いです。

データの分類は、各年度ごとに「全事故」や「共済種目別」に行っています。

- 「全事故」とは、各期間内に受け付けた事故件数
- 「共済種目別」とは、共済契約種目別に事故処理をした件数

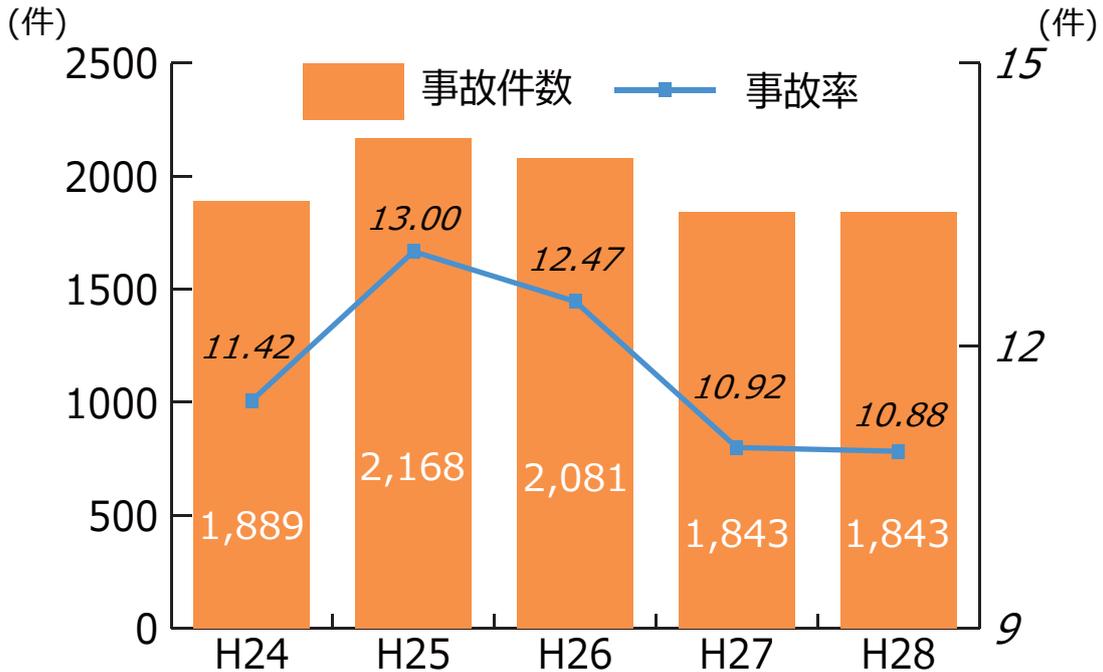
目次

1. 交通事故発生状況……………1頁
 - (1) 事故発生件数と事故率(平成24～28年度 全事故)
 - (2) 月別事故発生件数(平成28年度)
 - (3) 類型別事故発生件数(平成28年度)
 - (4) 道路形状別事故発生件数(平成28年度)
 - (5) 発生時間帯別事故発生件数(平成28年度)
 - (6) 運転者年齢層別事故発生件数(平成28年度)
 - (7) 原因別事故発生件数(平成28年度)
2. 共済種目別事故発生状況……………5頁
 - (1) 共済種目別事故発生件数・事故率
 - (2) 対人共済被害者数(死亡・後遺障害・傷害)
 - (3) 対物共済類型別件数
3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況(平成28年度)…6頁
 - (1) 追突事故の実態
 - ① 追突事故の発生場所別と事故原因(全事故)
 - ② 追突事故(対人・対物共済)の支払共済金・備金総額
 - ③ 追突事故防止のワンポイントアドバイス
 - (2) 交差点事故の実態
 - ① 交差点事故の類型別事故状況(全事故)
 - ② 交差点事故の事故原因(全事故)
 - ③ 交差点事故(対人・対物共済)の支払共済金・備金総額
 - ④ 交差点事故防止のワンポイントアドバイス
 - (3) 構内事故の実態(対物共済)
 - ① 構内事故の類型別事故状況
 - ② 構内事故の事故原因
 - ③ 構内事故(対物共済)の支払共済金・備金総額
 - ④ 構内事故防止のワンポイントアドバイス
 - (4) 交通弱者を被害者とする事故の実態(対人共済)
 - ① 交通弱者との道路形状別事故状況
 - ② 交通弱者の事故原因
 - ③ 交通弱者被害者態様別(死亡・後遺障害・傷害)の支払共済金・備金総額
 - ④ 交通弱者年齢層と事故発生場所
 - ⑤ 交通弱者被害者類型・態様別
 - ⑥ 交通弱者との事故防止のワンポイントアドバイス
4. 過去5年間における発生事故に係る支払共済金・備金総額…15頁
 - (1) 共済種目別(対人・対物共済)の支払共済金・備金総額
5. 過去5年間における高額賠償事案の事故発生概要…15頁
 - (1) 対人共済
 - ① 高額賠償事案(1,000万円以上)の事故発生状況
 - ② 道路形状別の事故発生状況
 - ③ 発生時間帯別の事故発生状況
 - ④ 原因別の事故発生状況
 - ⑤ 類型別の事故発生状況
 - (2) 対物共済
 - ① 高額賠償事案(200万円以上)の事故発生状況
 - ② 道路形状別の事故発生状況
 - ③ 発生時間帯別の事故発生状況
 - ④ 原因別の事故発生状況
 - ⑤ 類型別の事故発生状況
6. 過去5年間における運転者年齢層別の事故発生状況(全事故)…20頁
 - (1) 運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況
 - (2) 運転者年齢層別の類型別事故発生状況
 - (3) 運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況
 - (4) 年齢層別からみた高齢運転者(65歳以上)の特徴
 - (5) 高齢運転者への事故防止ワンポイントアドバイス
7. 平成28年度交通事故防止強化月の事故発生状況…23頁
 - (1) 月別事故発生状況・事故率
 - ① 月別事故発生件数・事故率(全事故)
 - ② 月別事故発生件数・事故率(対人共済)
 - ③ 月別事故発生件数・事故率(対物共済)
 - (2) 道路形状別事故発生件数(全事故)
 - (3) 運転者年齢層別事故発生件数(全事故)
 - (4) 類型別事故発生件数(全事故)
 - (5) 原因別事故発生件数(全事故)
8. 交協連傘下15組合の平成28年度事故発生状況…27頁

1. 交通事故発生状況

(1) 事故発生件数と事故率（平成24～28年度 全事故）

事故発生件数と事故率は平成25年度までは増加したが、平成26年度以降は、減少しています。



※発生件数は各年度の決算時の件数を示します。

※事故率は100両当りの1年間の事故発生割合(件数)を示します。

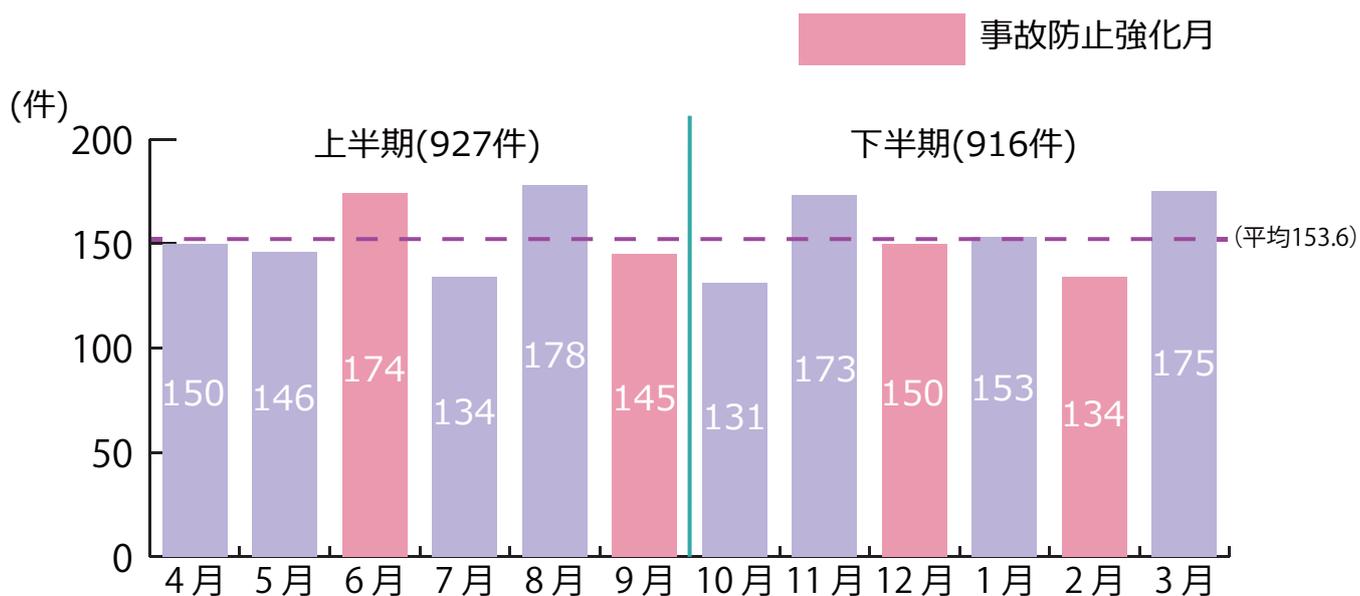
「共済種目別事故発生件数」

(件)

	H24	H25	H26	H27	H28
対 人	505	501	443	463	447
搭 傷	9	15	12	8	10
対 物	1,650	1,775	1,640	1,617	1,645
車 両	98	107	107	117	118
合 計	2,262	2,398	2,202	2,205	2,220
全事故件数	1,889	2,168	2,081	1,843	1,843

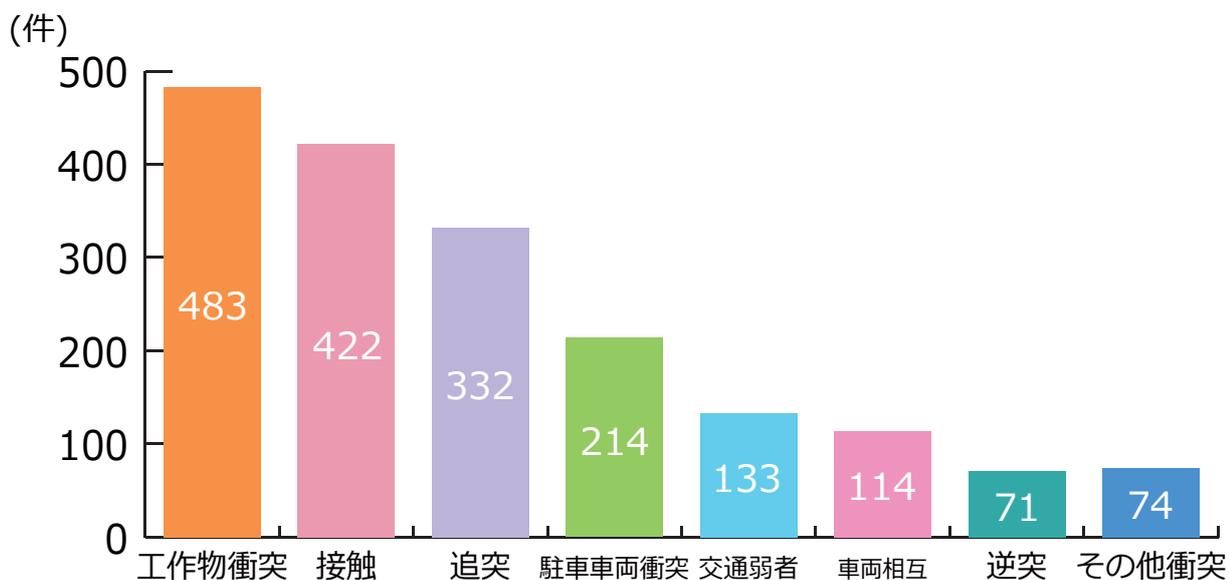
(2) 月別事故発生件数（平成28年度）

月別では、8月が最も多く、次いで3月、6月、11月の順に多く発生しています。



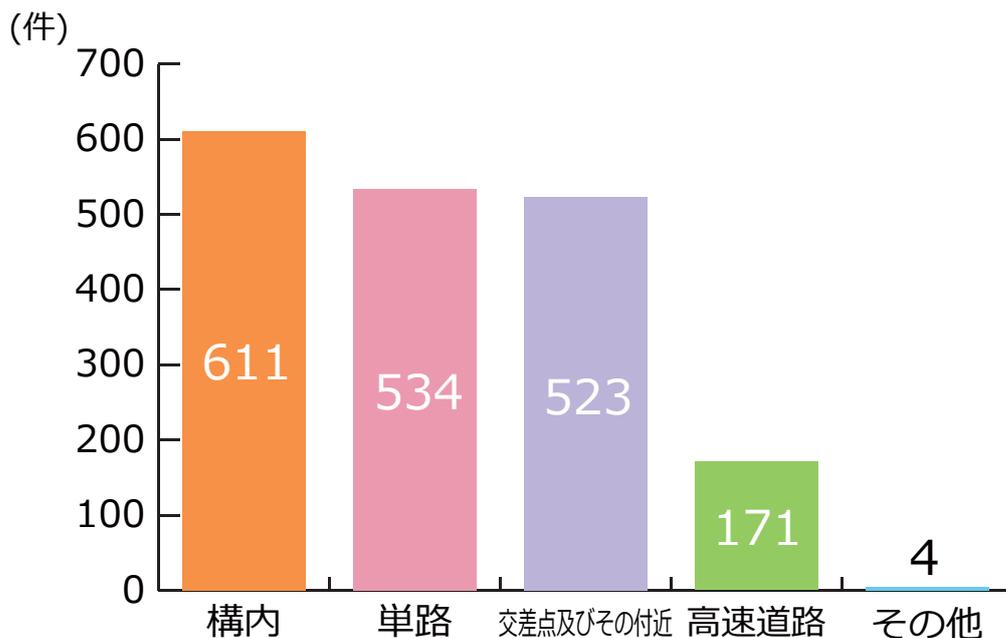
(3) 類型別事故発生件数（平成28年度）

類型別では、工作物への衝突が最も多く、次いで接触が多く発生しています。



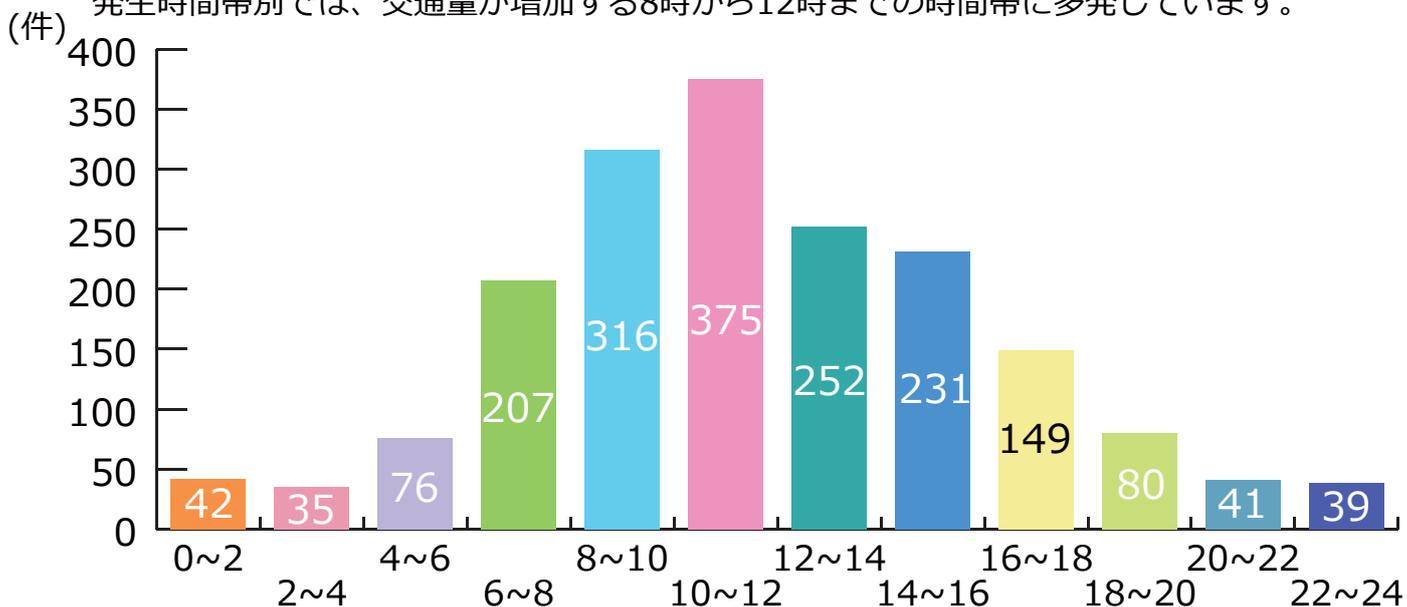
(4) 道路形状別事故発生件数（平成28年度）

道路形状別では、構内が最も多く、次いで単路と交差点及びその付近が多く発生しています。



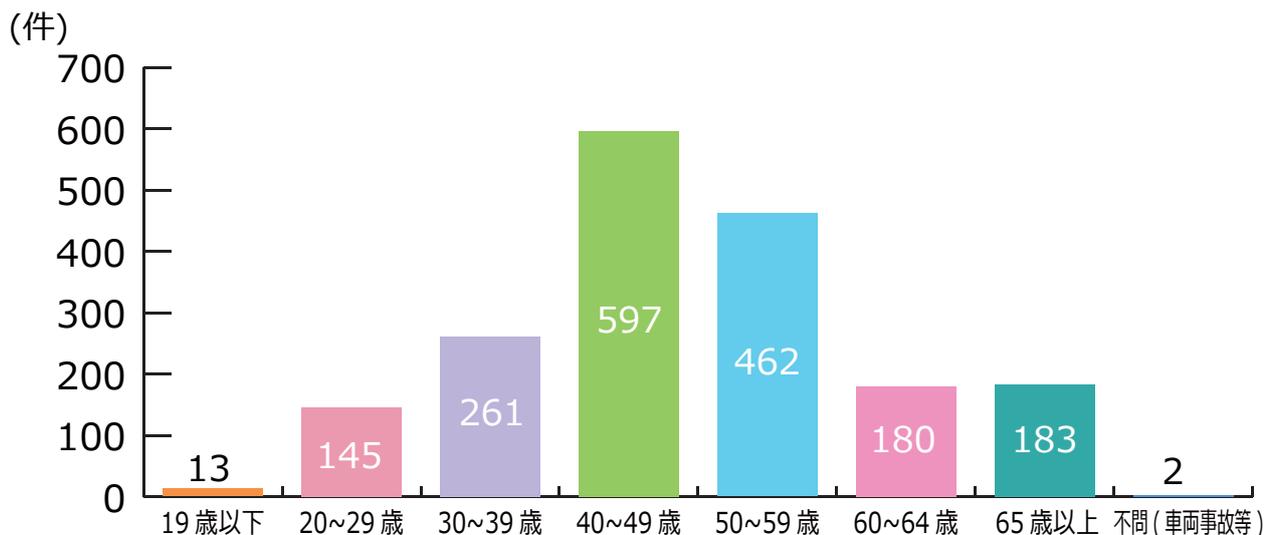
(5) 発生時間帯別事故発生件数（平成28年度）

発生時間帯別では、交通量が増加する8時から12時までの時間帯に多発しています。



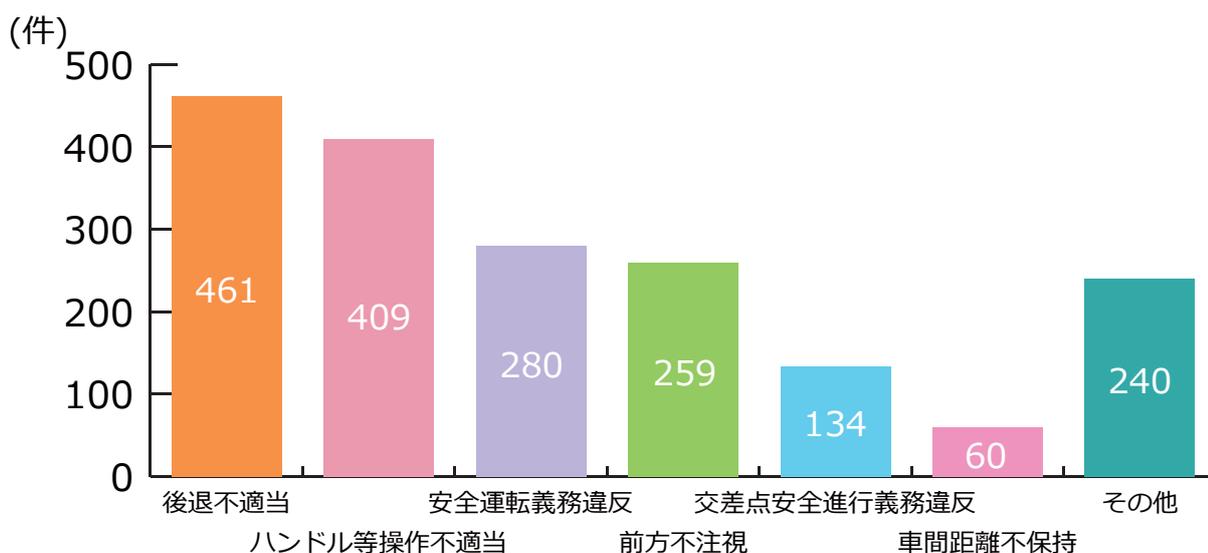
(6) 運転者年齢層別事故発生件数（平成28年度）

運転者年齢別では、40歳代が最も多く、また65歳以上の高齢運転者は、前年度を8人上回り過去5年間で最多となっています。



(7) 原因別事故発生件数（平成28年度）

原因別では、対物事故特有の構内での後退不適當による発生が最も多く、次いでハンドル等操作不適當が多く発生しています。



道路交通法では

- ◇安全運転義務違反とは、他人に危害を及ぼさないような速度と方法で運転しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。
- ◇交差点安全進行義務違反とは、交差点を通過する際、交差点の通行車両及び横断歩行者に注意し、安全な速度と方法で進行しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。

2. 共済種目別事故発生状況

(1) 共済種目別事故発生件数・事故率

共済種目別	年度	H24	H25	H26	H27	H28
対人	発生件数(件)	505	501	443	463	447
	死者数(人)	12	7	5	10	7
	傷者数(人)	660	671	580	618	592
	事故率(件)	3.05	3.00	2.65	2.74	2.64
搭傷	発生件数(件)	9	15	12	8	10
	事故率(件)	0.16	0.27	0.21	0.13	0.17
対物	発生件数(件)	1,650	1,775	1,640	1,617	1,645
	事故率(件)	13.03	13.63	12.51	12.06	12.29
車両	発生件数(件)	98	107	107	117	118
	事故率(件)	7.13	7.22	6.70	6.51	6.66

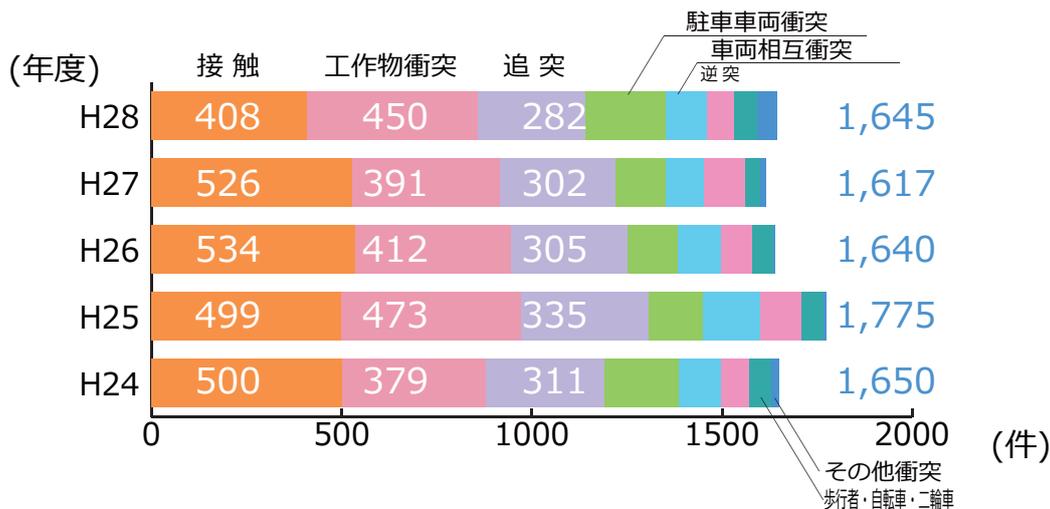
(2) 対人共済被害者数(死亡・後遺障害・傷害)

平成28年度対人事故は、前年度と比べて減少し、死亡・後遺障害事故の各年度の被害者数に対して最も少なく、5.7%の発生でした。

区分	年度	H24	H25	H26	H27	H28
① 死亡(人)		12	7	5	10	7
② 後遺障害(人)		37	42	48	36	27
③ 傷害(人)		623	629	532	582	565
④ 合計(人)		672	678	585	628	599
⑤ ①+②(人)		49	49	53	46	34
⑥ ⑤の④に対する割合(%)		7.3	7.2	9.1	7.3	5.7

(3) 対物共済類型別

平成28年度対物事故は、1,645件発生し前年度と比べて28件増加しました。また、工作物への衝突と接触事故とを合わせて全体の半分を占めています。



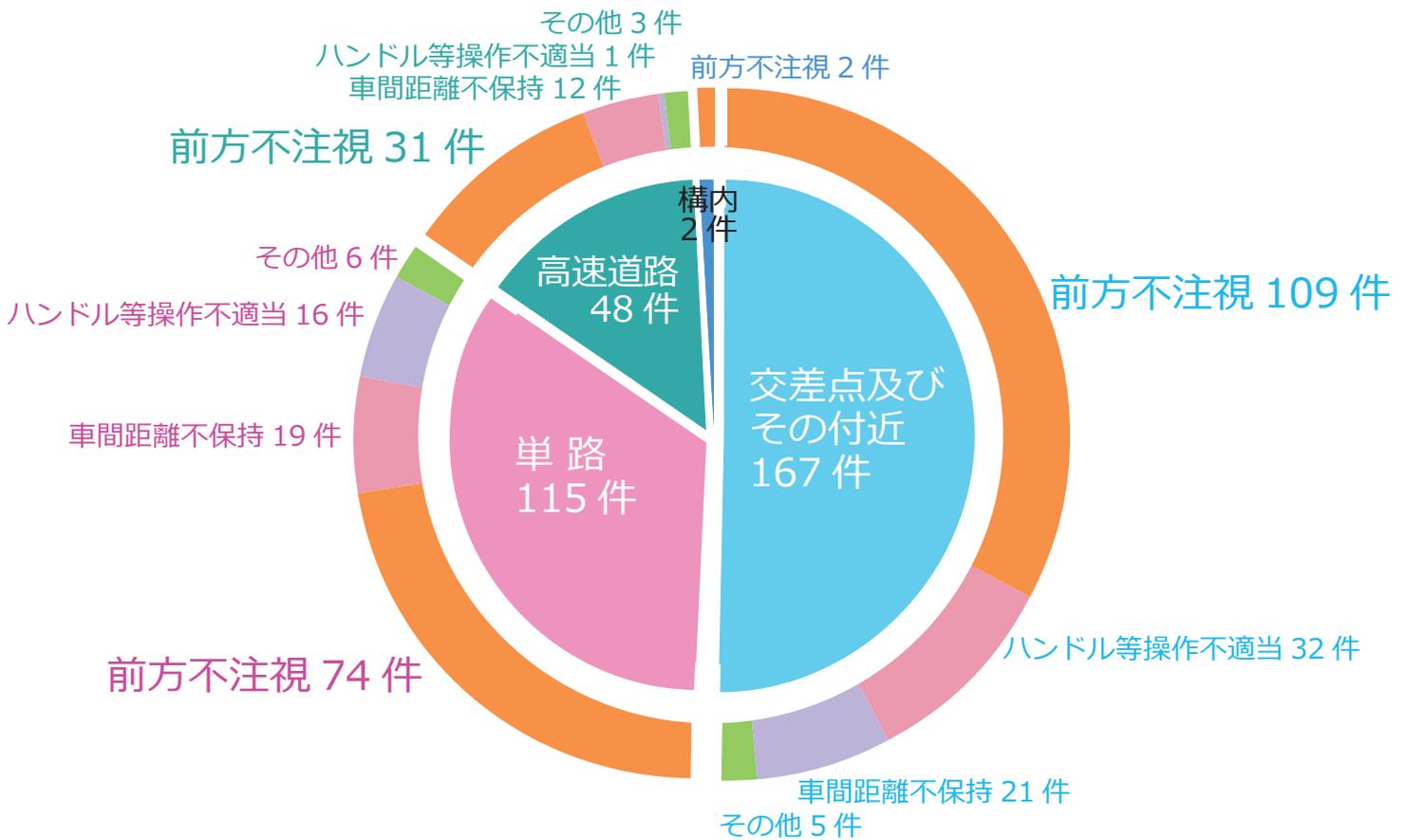
3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況（平成28年度）

（1）追突事故の実態

① 追突事故の発生場所別と事故原因（全事故）

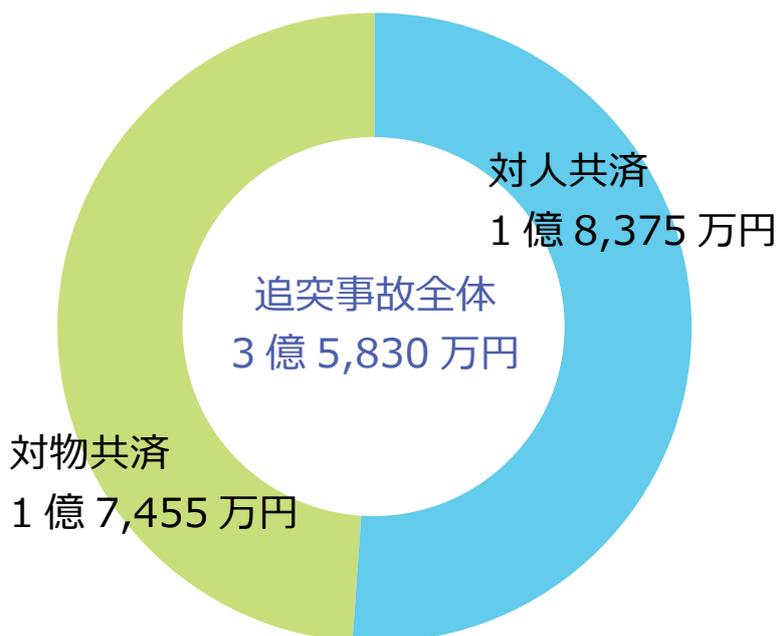
追突事故は、道路形状に関わらず、前方不注視、ハンドル等操作不適當および車間距離不保持が主な原因となっています。

[追突事故332件]



② 追突事故（対人・対物共済）の支払共済金・備金総額

平成28年度の支払共済金・備金総額は9億8,965万円で、うち追突事故による対人共済は1億8,375万円、対物共済は1億7,455万円、追突事故全体で3億5,830万円となっています。



③ 追突事故防止のワンポイントアドバイス

追突事故防止のため、トラックの視界特性の認識や高速道路利用時の速度の調整などへの注意が必要です。

追突事故を防止するには

Advice

1. トラックの視界特性を認識し、異常接近に注意

高い位置からの運転視界では、車間距離が長いと錯覚しやすいことから、前車に追従する時は、車間距離を長めにとりましょう。

2. 高速道路を降りた直後は、速度に注意

スピード感覚がマヒして、オーバースピードになります。速度メーターで速度を確認して走行しましょう。

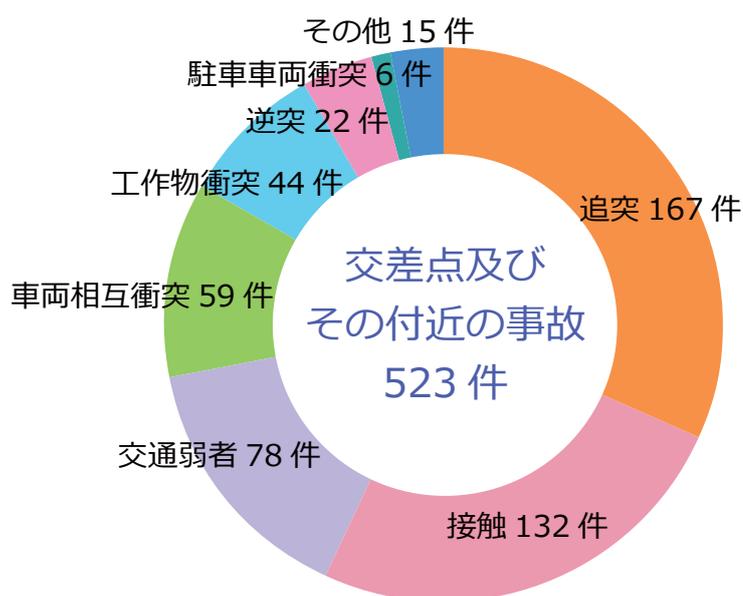
3. 他車に追突される「被追突事故」に注意

高速道路上では、故障などの非常時以外の駐停車は厳禁です。止むを得ず停車する場合は、後続車からの追突を避けるため、路側帯等に停車しハザード、停止板および発煙筒などを的確に活用しましょう。

(2) 交差点事故の実態

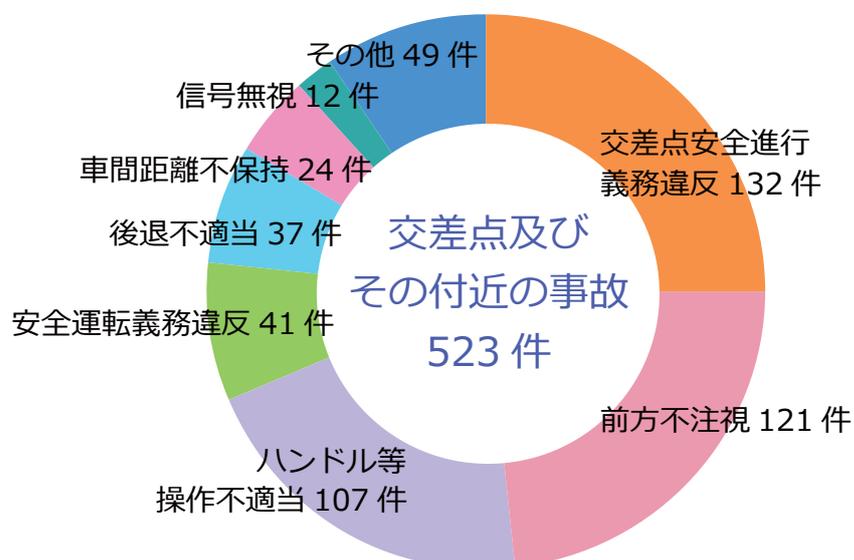
① 交差点事故の類型別事故状況（全事故）

交差点及びその付近における事故の類型別では、追突事故が最も多く、次いで接触事故と続き、全体の約半分を占めています。



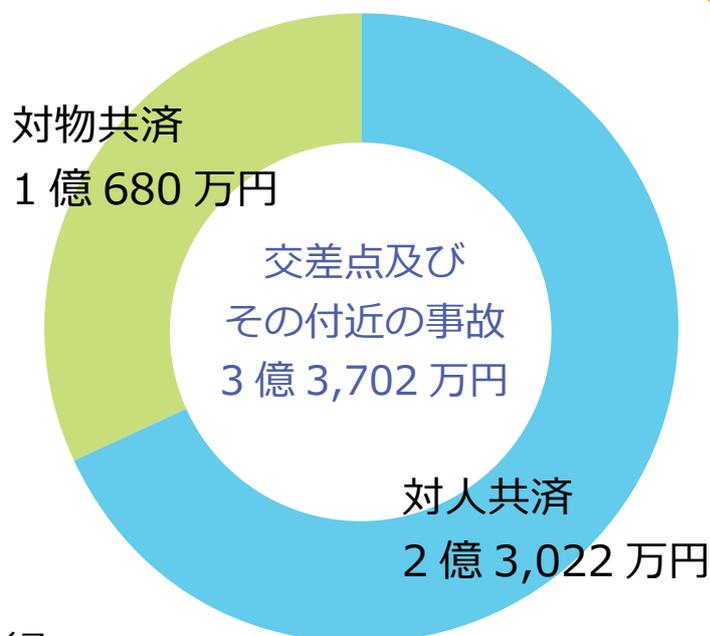
② 交差点事故の事故原因（全事故）

交差点及びその付近における事故の事故原因では、交差点安全進行義務違反が主な原因となっています。



③ 交差点事故（対人・対物共済）の支払共済金・備金総額

平成28年度の交差点及びその付近の事故による支払共済金・備金は、対人共済は2億3,022万円、対物共済は1億680万円、総額で3億3,702万円となっています。



④ 交差点事故防止のワンポイントアドバイス

交差点での事故原因は、交差点安全進行義務違反、前方不注視、ハンドル等操作不適當が主な原因となっています。車、人が混在する交差点では、確実な安全確認が必要です。

交差点事故を防止するには

Advice

1. 右折先の横断歩道上の歩行者・自転車に注意

対向車線の状況に気をとられ、特に右方向から来る自転車等を見落としやすくなります。死角の部分は顔をずらして確認するなど交差点を通過する際は、確実な安全確認をしてください。

2. 「サンキュー事故」に注意

渋滞の切れ目を右折するときは、道路端からくる二輪車に注意し、道路端まで見渡せる位置まで徐行して二輪車の有無をしっかりと確認しましょう。

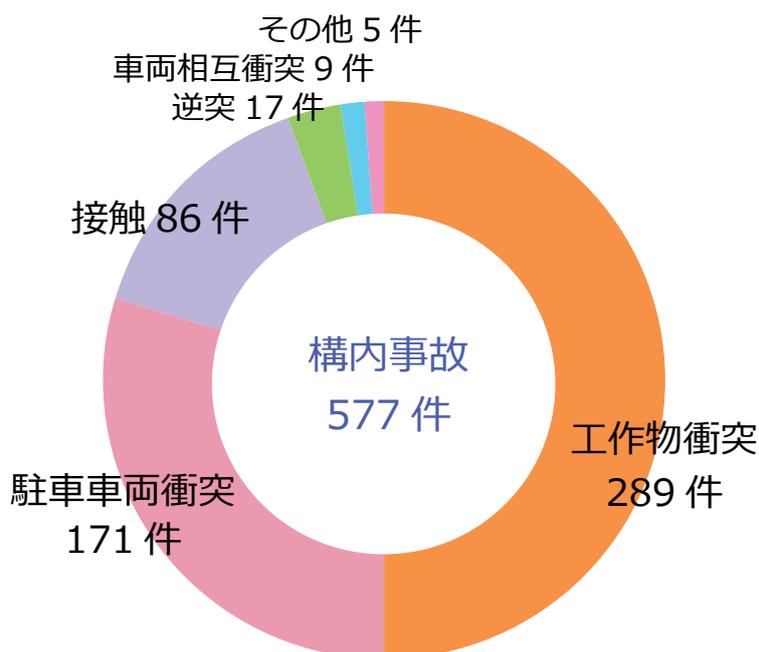
3. 内輪差に注意

狭い道に左折するときは塀や電柱などに接触する危険があります。内輪差を考慮し、側方の安全をこまめに確認しましょう。

(3) 構内事故の実態（対物共済）

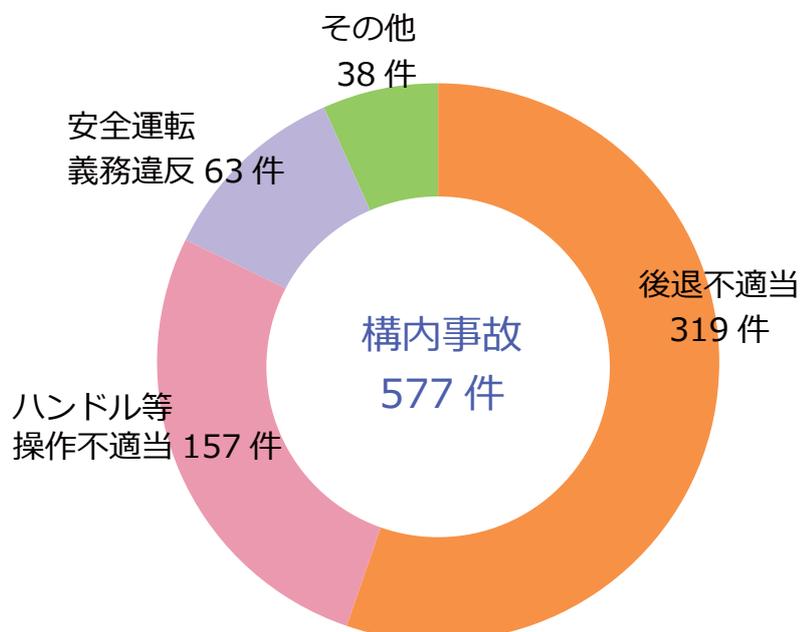
① 構内事故の類型別事故状況

構内事故の類型別では、構内の塀やシャッター等の工作物への衝突事故が289件発生し、構内事故全体の50.1%と最も多く発生しています。



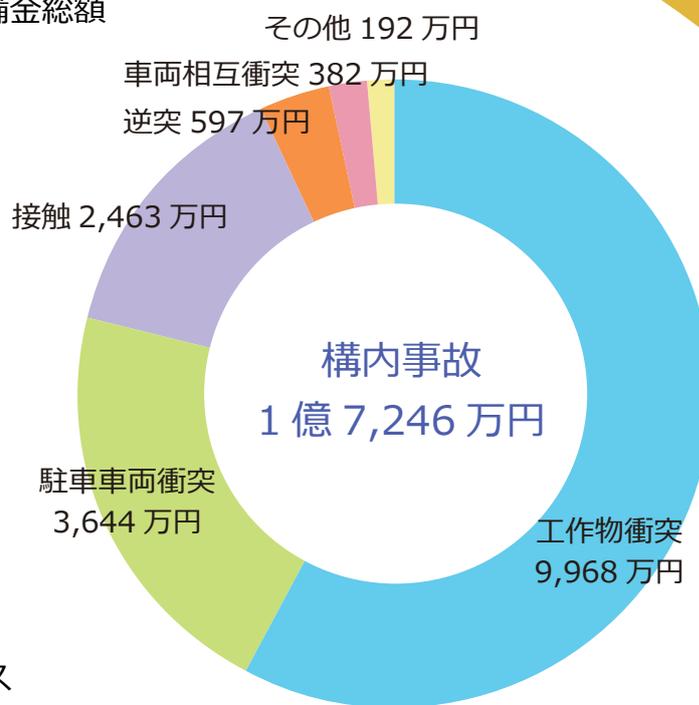
② 構内事故の事故原因

構内事故の事故原因別では、後方に対する安全確認が不十分な後退不適當が319件発生し、運転者があと一步注意を払えば防げる事故が発生しています。



③ 構内事故（対物共済）の支払共済金・備金総額

平成28年度の構内事故による支払共済金・備金は1億7,246万円で、そのうち塀やシャッターなど工作物への衝突事故が9,968万円と構内事故による支払共済金・備金の57.8%を占めております。



④ 構内事故防止のワンポイントアドバイス

構内での事故原因は、「後退時の安全不確認」・「ハンドル等操作不適當」が主な原因となっています。慣れた構内でも確実な安全確認が必要です。

構内事故を防止するには

Advice

1. 出入構時は、一時停止をして歩道上の安全をしっかりと確認

「車が、来ていないから安全だろう。」と発進すると、歩道上の歩行者や自転車を見落として、思わぬ事故になりますので、歩道上にも注意しましょう。

2. 構内の周囲の車、施設・建物に注意

駐停車車両は、「止まったままだろう。」と想着いても、不意に発進することがあります。また、施設・建物の上方に設置された看板や空調ダクトなどを見落とし易いので、上方の看板等の接触にも注意しましょう。

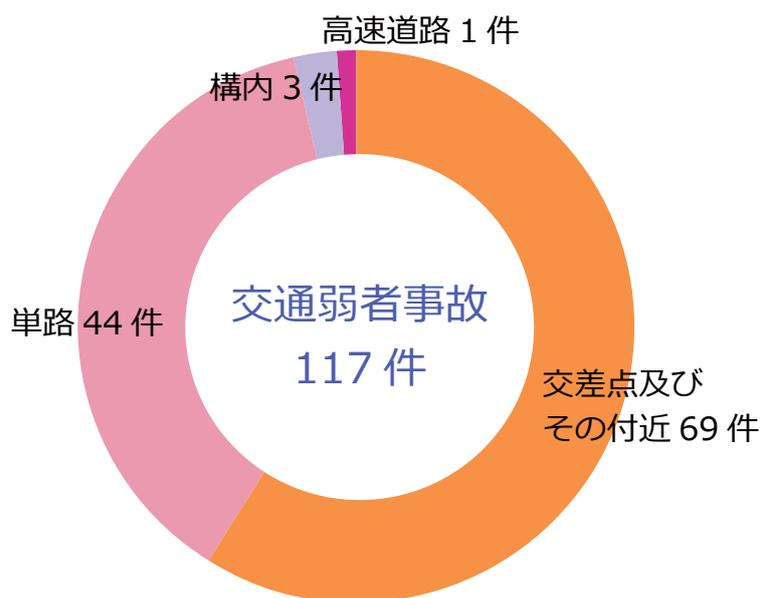
3. できるかぎり前進走行で移動

「公道でないから安全だろう。」と後方確認を怠りがちになります。「油断の心理」を自覚し、警戒心を高めるとともに、方向転換もできるかぎりバックをしないで前進走行し、バックが必要な時は、細心の注意を払いましょう。

(4) 交通弱者を被害者とする事故の実態（対人共済）

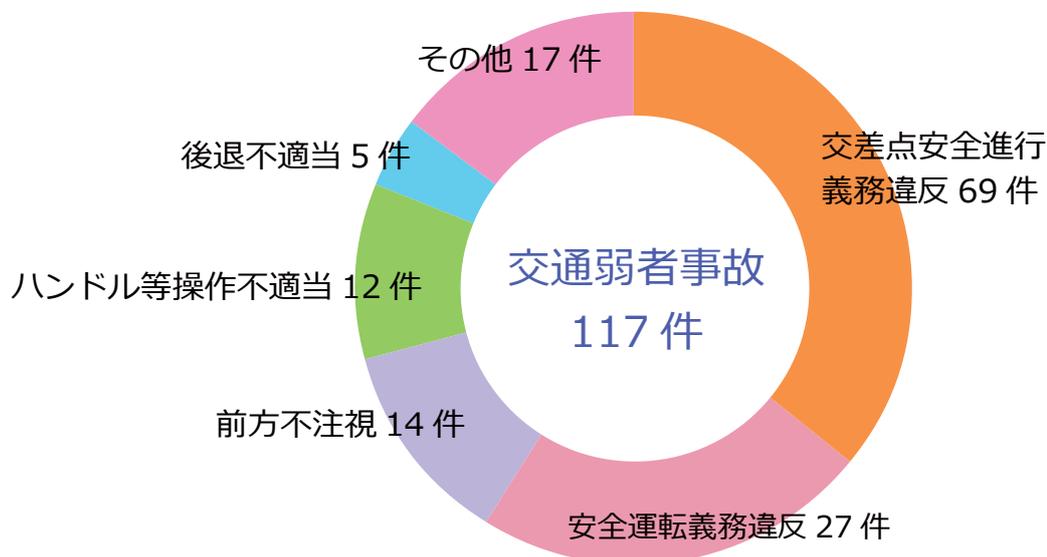
① 交通弱者との道路形状別事故状況

交通弱者(歩行者30件・自転車39件・二輪車48件)を被害者とする事故117件のうち、69件が交差点及びその付近で発生しています。



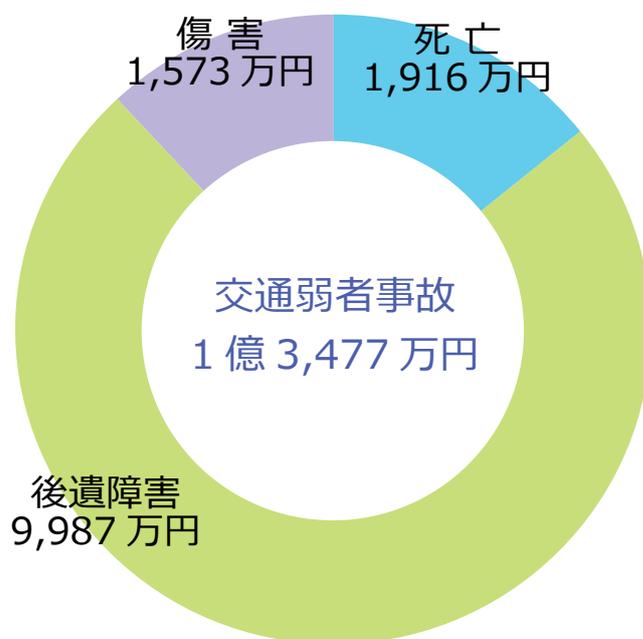
② 交通弱者の事故原因

交通弱者事故の事故原因では、交差点を通過する際、通行車両、横断歩行者への安全確認を怠ったことによる交差点安全進行義務違反が69件と最も多く、次いで安全確認義務違反、前方不注視によるものが多くを占めています。



③ 交通弱者被害者態様別（死亡・後遺障害・傷害）の支払共済金・備金総額

平成28年度の交通弱者に対する支払共済金・備金は死亡事故に対して1,916万円、後遺障害に対して9,987万円、傷害に対して1,573万円で総額1億3,477万円となっています。



④ 交通弱者年齢層と事故発生場所

交通弱者事故件数117件で被害者数は120人となっています。

被害者年齢層別では65歳以上が20人で30歳代と20歳代に次いで多く、近年の特徴として高齢者の被害者数が増加しています。また交差点及びその付近で過半数の事故が発生しています。

(人)

年 齢	場 所				合 計
	交差点及びその付近	単 路	構 内	高速道路	
6 歳以下	1	1			2
7~12 歳	3	1			4
13~15 歳	1	2			3
16~19 歳	4	2			6
20~29 歳	13	8			21
30~39 歳	16	14	1		31
40~49 歳	9	5	1	1	16
50~59 歳	9	5	1		15
60~64 歳	1	1			2
65 歳以上	13	7			20
合 計	70	46	3	1	120

⑤ 交通弱者被害者類型・態様別

被害者類型別では、二輪車が50件と最も多く発生し、後遺障害についても二輪車が6人と約46%を占めています。

(人)

区分 被害者態様	交通弱者			合計
	歩行者	自転車	二輪車	
死亡	1	2	2	5
後遺障害	2	5	6	13
傷害	27	33	42	102
合計	30	40	50	120

⑥ 交通弱者との事故防止のワンポイントアドバイス

交通弱者との事故原因は、交差点安全進行義務違反、安全運転義務違反、前方不注視が主な原因となっています。交通弱者の特徴を理解し、確実な安全確認が必要です。

交通弱者との事故を防止するには

Advice

1. 交差点左折時の安全確認の徹底

左側方の死角に二輪車・自転車がないか、早めの確認を行い、左折開始前に確実に、左後方の安全確認を徹底しましょう。

2. 横断歩道上の安全確認の徹底

左折時には、左側方から横断歩道へ駆け込みをする自転車・歩行者を警戒し、右折時には、前方横断歩道上の安全確認を徹底しましょう。

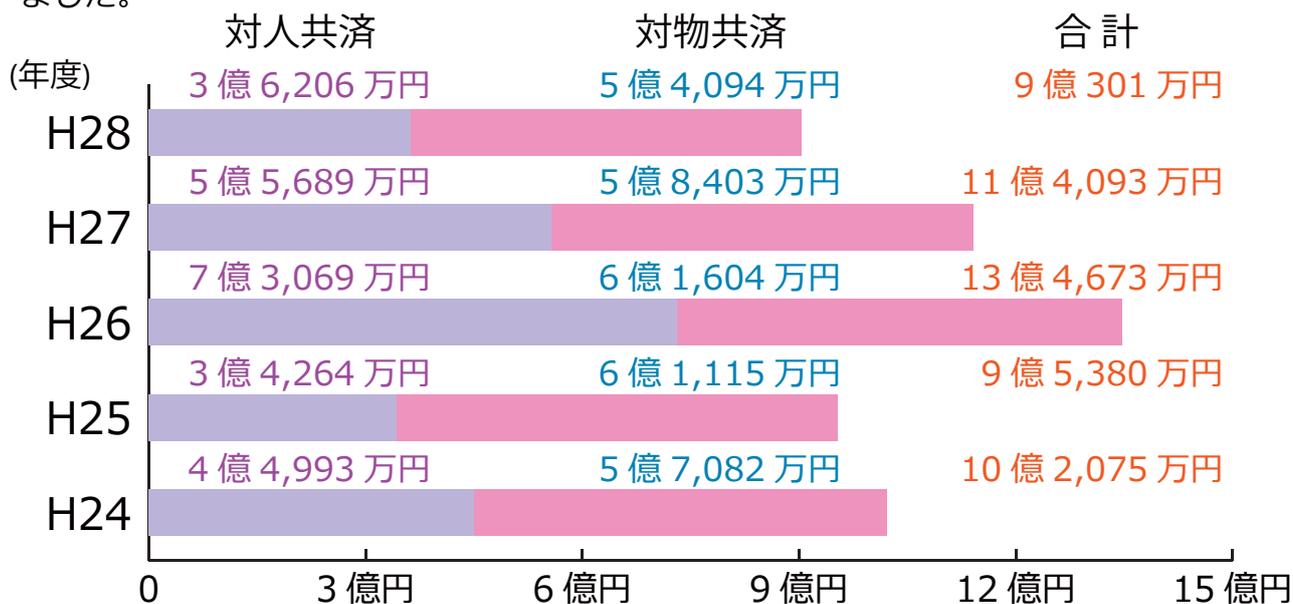
3. 生活道路の漫然運転による横断歩行者に注意

人通りの少ない生活道路では、横断歩道の無い場所での高齢者の横断や駐車車両の陰からの子供の飛び出し等、漫然と運転していると発見が遅れて、歩行者事故が発生しますので、閑散な生活道路上への注意を徹底しましょう。

4. 過去5年間に於ける発生事故に係る支払共済金・備金総額

(1) 共済種目別（対人・対物共済）の支払共済金・備金総額

平成28年度の対人・対物共済の支払共済金・備金総額は、過去5年間で最も低くなっています。種目別に見ても対人共済は平成25年に次いで低く、対物共済は最も低い額となりました。

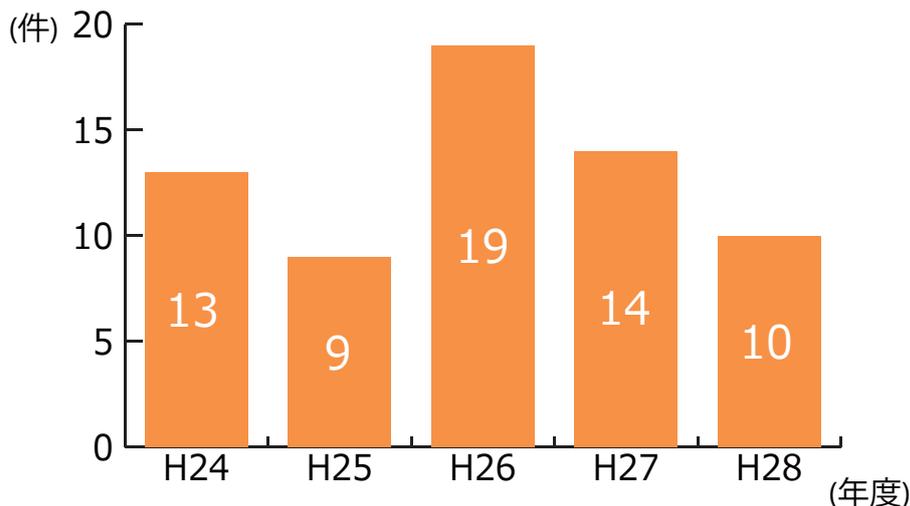


5. 過去5年間に於ける高額賠償事案の事故発生概要

(1) 対人共済

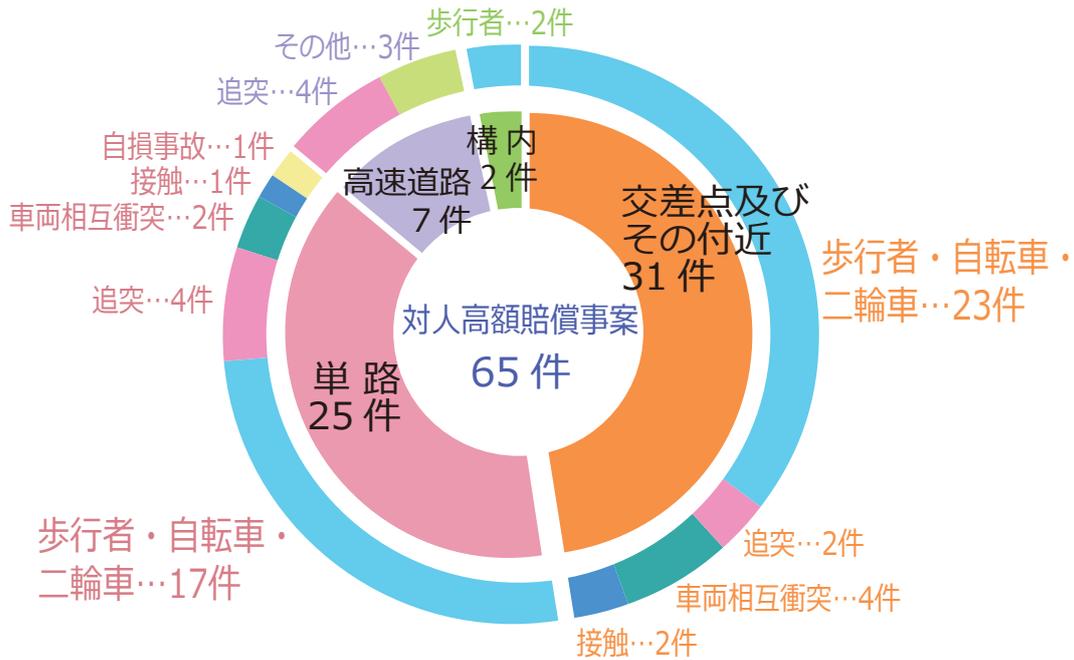
① 高額賠償事案(1,000万円以上)65件の事故発生状況

平成28年度の高額賠償事案は10件の発生で、前年度と比べ減少しましたが、各年度ともに後遺障害事案が支払共済金・備金総額の8割前後を占める高い状況にあります。



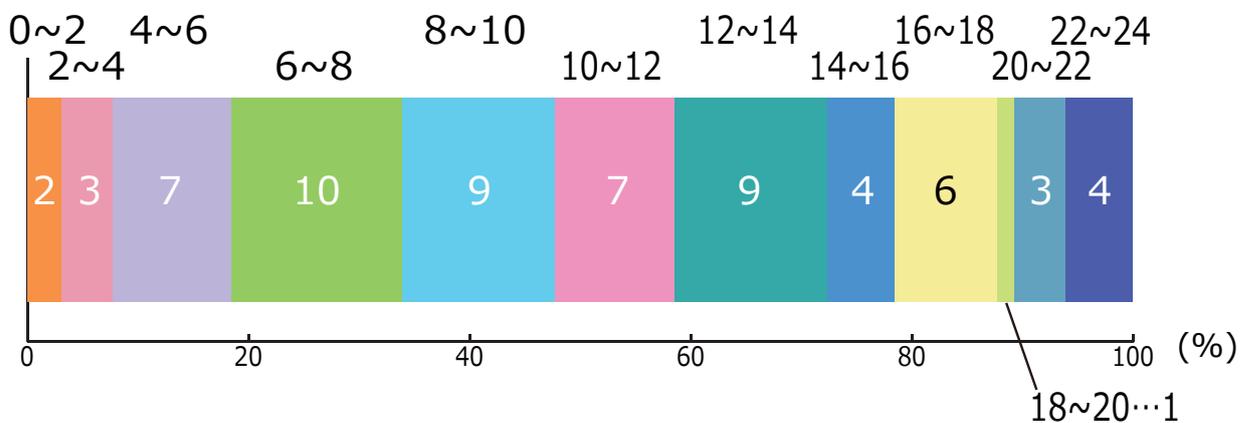
② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、交差点及びその付近で31件、単路で25件事故が発生しており、その多くは交通弱者（歩行者・自転車・二輪車）との事故が占めています。



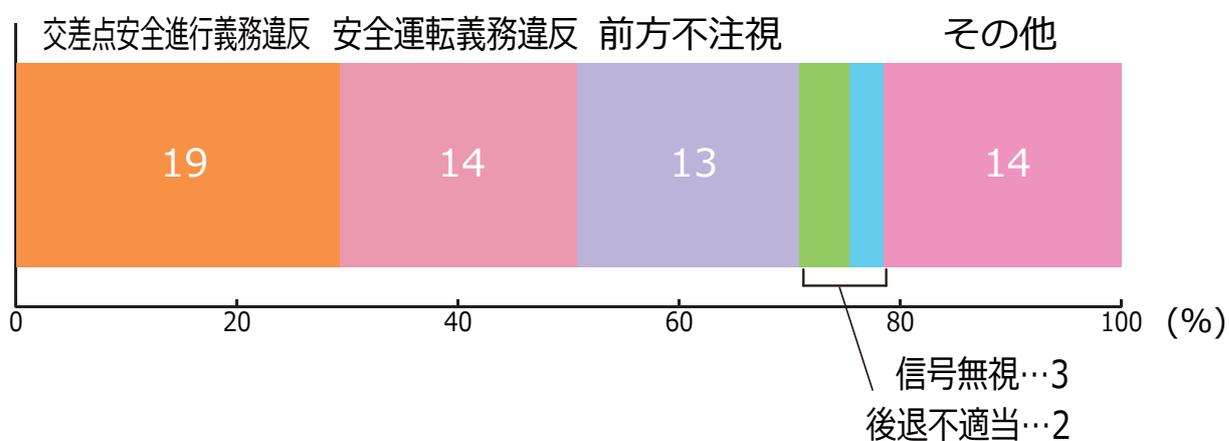
③ 発生時間帯別の事故発生状況

発生時間帯別では、全事故では8時から12時が多発時間帯でしたが、高額賠償事案の発生では交通量が増える6時から10時までの時間帯に多く発生しています。



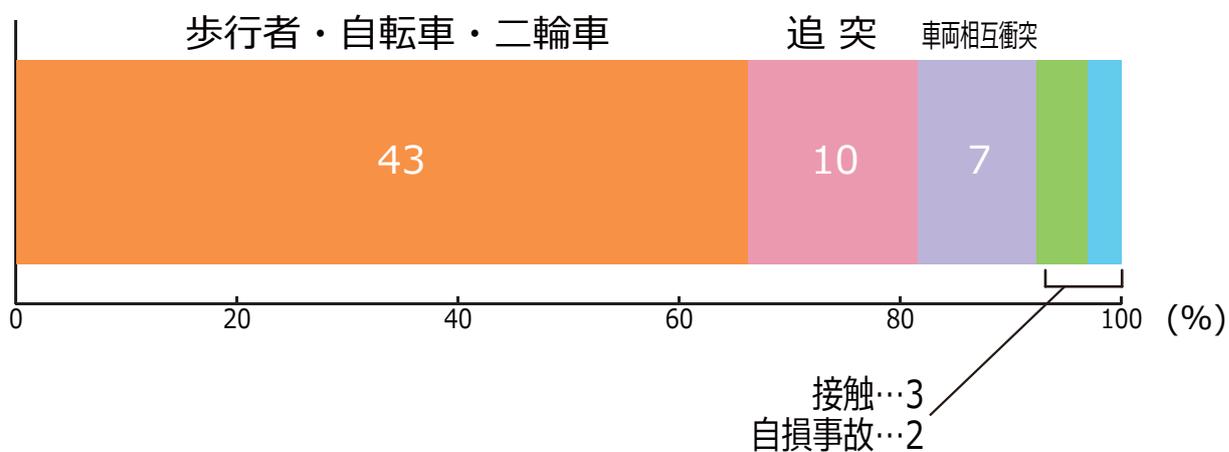
④ 原因別の事故発生状況

原因別では、交差点左折時の巻き込み事故など、交差点安全進行義務違反による事故が19件と最も多くなっています。



⑤ 類型別の事故発生状況

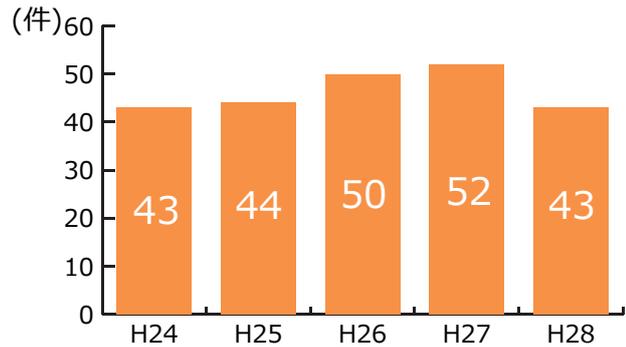
類型別では、交通弱者（歩行者・自転車・二輪車）との事故が約7割を占めています。



(2) 対物共済

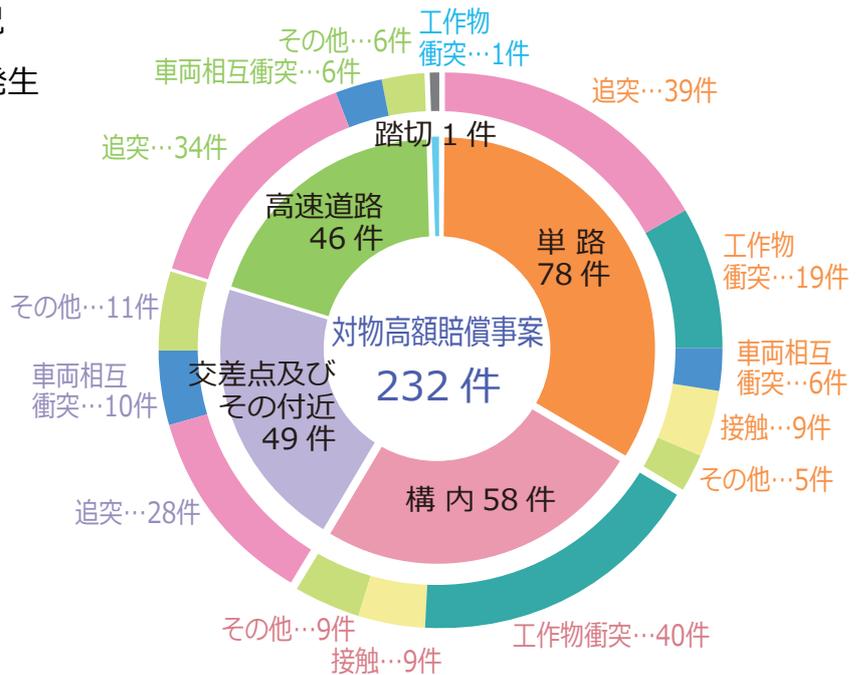
① 高額賠償事案(200万円以上)232件の事故発生状況

平成28年度の高額賠償事案は43件の発生で、過去5年間で最も少ない発生となっています。



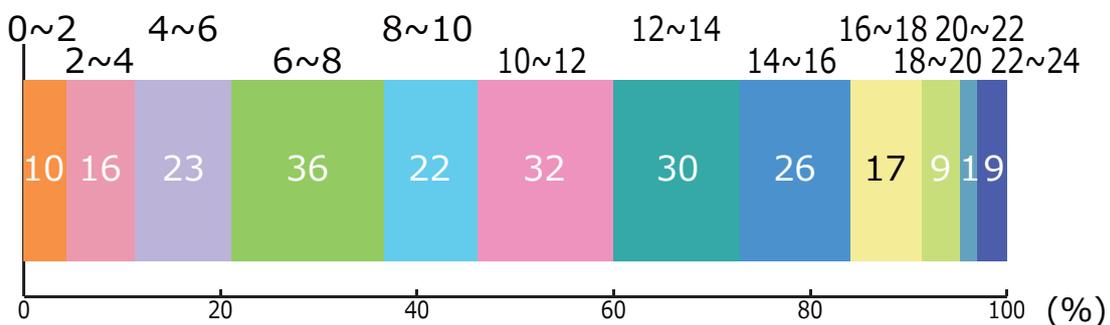
② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、単路で発生した事故が78件と最も多く、そのうち追突事故が半数を占めています。また近年、構内事故が増加し、その約7割が構内のシャッター等工作物を損壊する事故となっています。



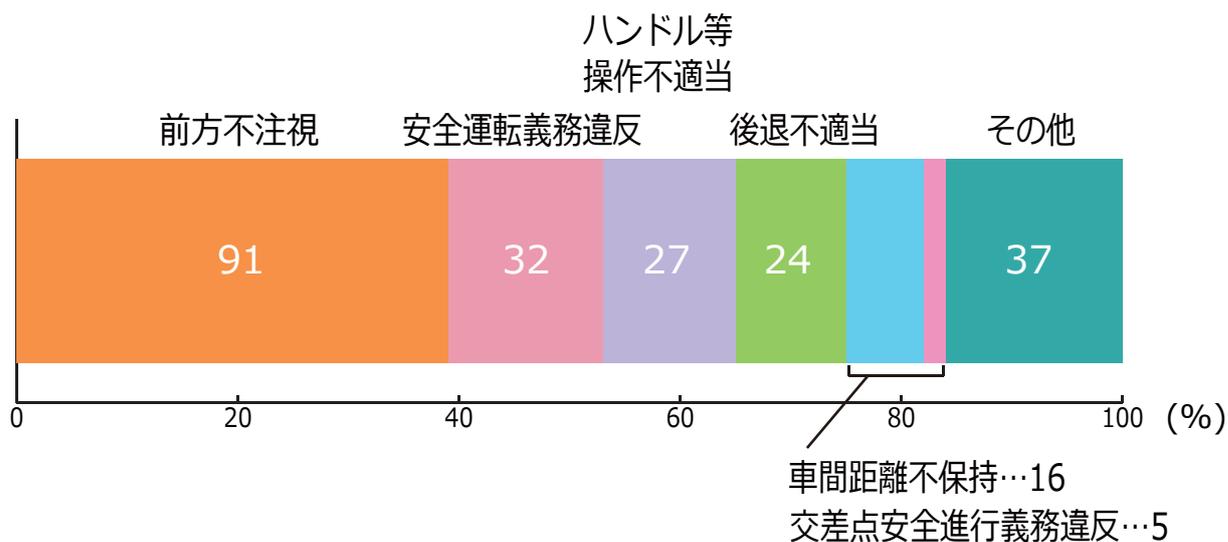
③ 発生時間帯別の事故発生状況

発生時間帯別では、6時から12時までの午前中に90件と全体の約4割の事故が発生しています。



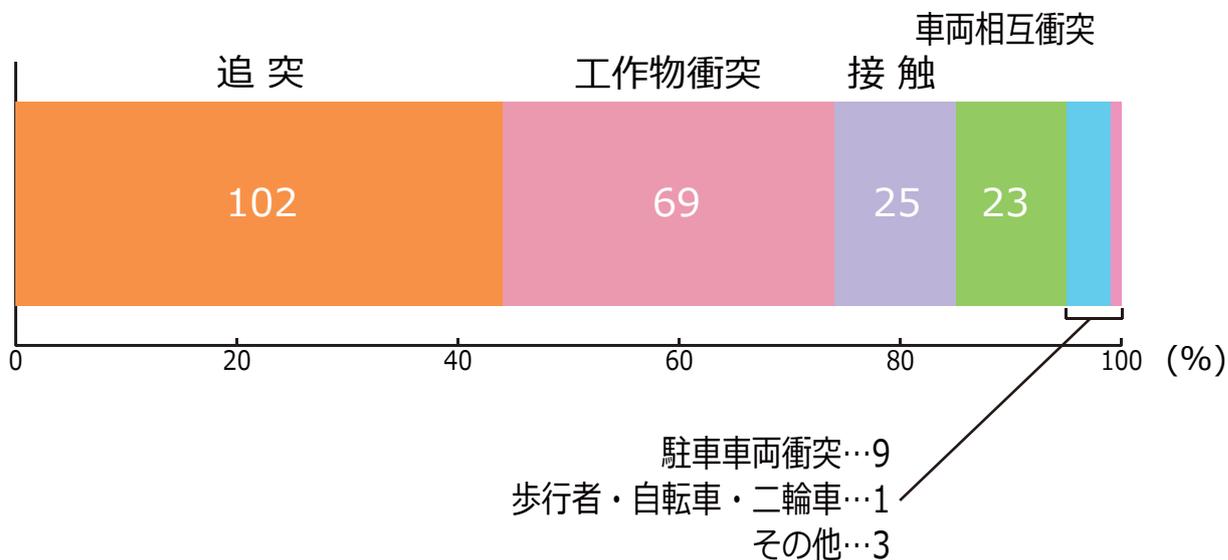
④ 原因別の事故発生状況

原因別では、前方不注視による事故が91件と最も多く、次いで安全運転義務違反、ハンドル等操作不適當が多く発生しています。



⑤ 類型別の事故発生状況

類型別では追突事故が102件と最も多く、特に玉突き事故による複数の車両損壊事故は高額賠償事案に発展する傾向があります。



6. 過去5年間に於ける運転者年齢層別の事故発生状況（全事故）

（1）運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況

道路形状別の事故では、40歳代までは単路、50歳以上は構内で最も多く発生しています。

(件)

区分	年齢	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	不明	合計
交差点及びその付近		18	240	459	847	653	246	165	1	2,629
単路		27	286	552	1,114	730	275	248	7	3,239
高速道路		3	76	178	339	180	66	36	1	879
構内		10	178	451	964	778	316	314	34	3,045
その他		0	2	7	8	8	3	4	0	32
合計		58	782	1,647	3,272	2,349	906	767	43	9,824

（2）運転者年齢層別の類型別事故発生状況

類型別の事故では、20歳代までは追突事故、30歳代から64歳までは接触事故が最も多く発生し、また65歳以上では、工作物への衝突事故が最も多く発生しています。

(件)

事故類型	年齢	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	不明	合計
車両相互	追突	19	209	322	622	416	138	107	2	1,835
	逆突	4	49	76	134	111	54	46	0	474
	接触	7	199	468	945	670	235	194	8	2,726
	その他衝突	5	51	146	256	158	75	59	7	757
車両単独	駐車車両衝突	4	64	129	242	223	99	86	3	850
	工作物衝突	13	161	375	779	573	225	231	4	2,361
	その他	1	8	32	54	29	10	8	18	160
歩行者・自転車・二輪車		5	41	99	239	169	70	36	1	660
踏切・その他		0	0	0	1	0	0	0	0	1
合計		58	782	1,647	3,272	2,349	906	767	43	9,824

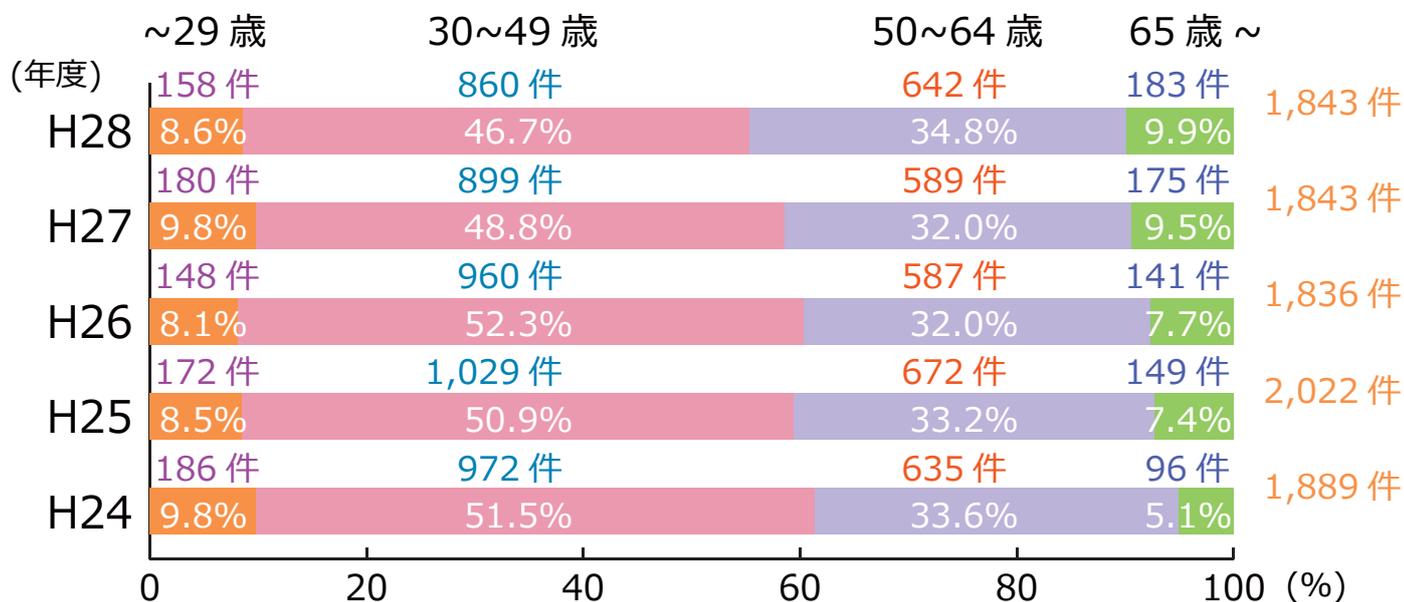
(3) 運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況

時間帯別では、19歳以下は12時から14時、20歳代以上は8時から12時の時間帯に多く発生しています。

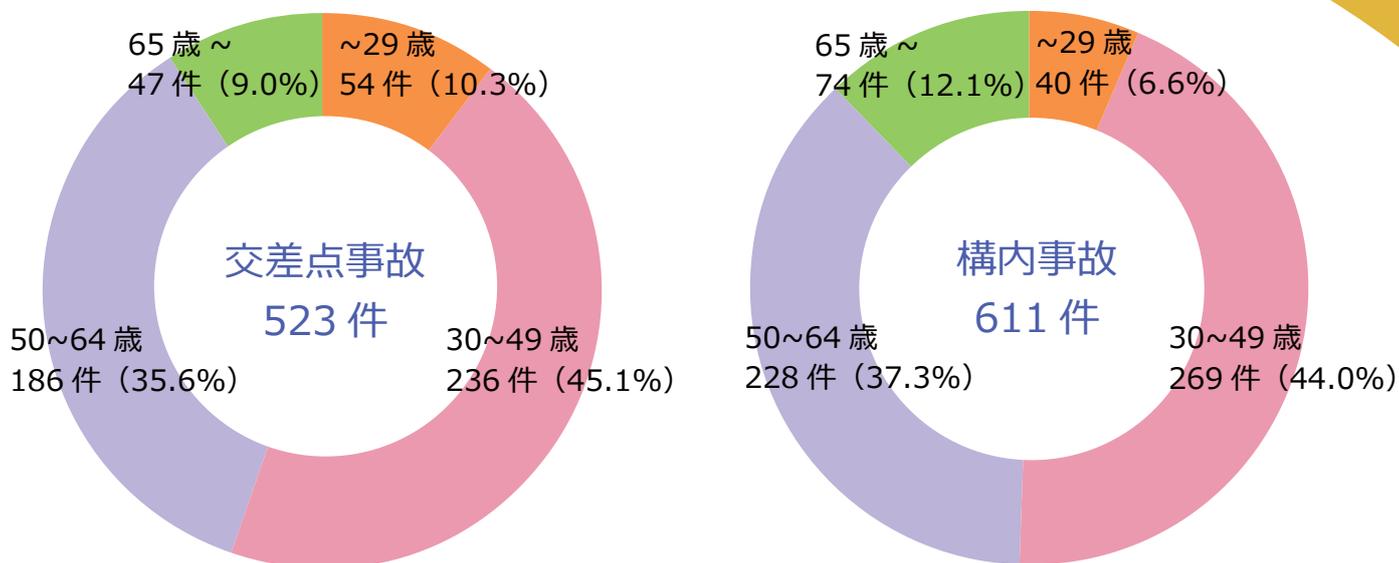
時間帯	年齢									合計
	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	不明		
0~2	0	13	31	82	51	14	10	4	205	
2~4	1	22	39	72	55	19	14	0	222	
4~6	1	26	83	146	118	55	30	4	463	
6~8	1	85	190	367	262	120	83	3	1,111	
8~10	12	139	280	582	419	144	155	5	1,736	
10~12	6	155	316	595	439	175	162	5	1,853	
12~14	18	110	219	480	334	131	111	4	1,407	
14~16	9	104	177	378	302	124	100	9	1,203	
16~18	4	67	135	268	169	72	54	3	772	
18~20	5	34	96	163	85	27	28	2	440	
20~22	1	21	41	71	64	15	12	2	227	
22~24	0	6	40	68	51	10	8	2	185	
合計	58	782	1,647	3,272	2,349	906	767	43	9,824	

(4) 年齢層別からみた高齢運転者（65歳以上）の特徴

年齢層別からみた特徴として、65歳以上の高齢運転者の占める割合が年々高くなっています。



平成28年度の年齢層別交差点事故および構内事故



(5) 高齢運転者への事故防止ワンポイントアドバイス

一般的に、加齢による身体機能の低下に伴って、ハンドルやブレーキ操作の遅れが、事故に繋がる恐れがあります。下記に、当組合の運転操作検査機器搭載車「つばさ号」による運転適性診断結果から高齢運転者の評価を他の年代に置き換えた結果の一部を掲載いたしますので、事業主および管理者の皆様におかれましては、社員の安全を守るために、社内での安全運転指導に活用していただきますようお願いいたします。

高齢運転者の事故防止アドバイス

Advice

1. 「反応の速さとむら」

「普通」の評価から、他の年代との比較において「やや注意」の評価となる傾向にあることから、慣れた道での運転でも慎重な運転、更には「ゆとり」を持った運転が大切です。

2. 「操作の選択と速さ」

他の年代と比較しても評価に大差はないものの、目に見える危険や隠れている危険を積極的に見つけ出す運転が大切です。

3. 「正確なハンドル操作」

「やや優れている」「普通」の評価から、他の年代との比較において「正確さ」「進み」が「やや注意」の評価となる傾向にあることから、車の方向の変化を正しく感じながら運転をするなど、車を自分が動かしているという感覚が大切です。

4. 「複数課題への注意配分」

「普通」「優れている」の評価から、他の年代との比較において「正確さ」「速さ」「ハンドル操作」が「やや注意」の評価となる傾向にあることから、運転操作が色々と重なる場面においては十分なゆとりを持った運転が大切です。

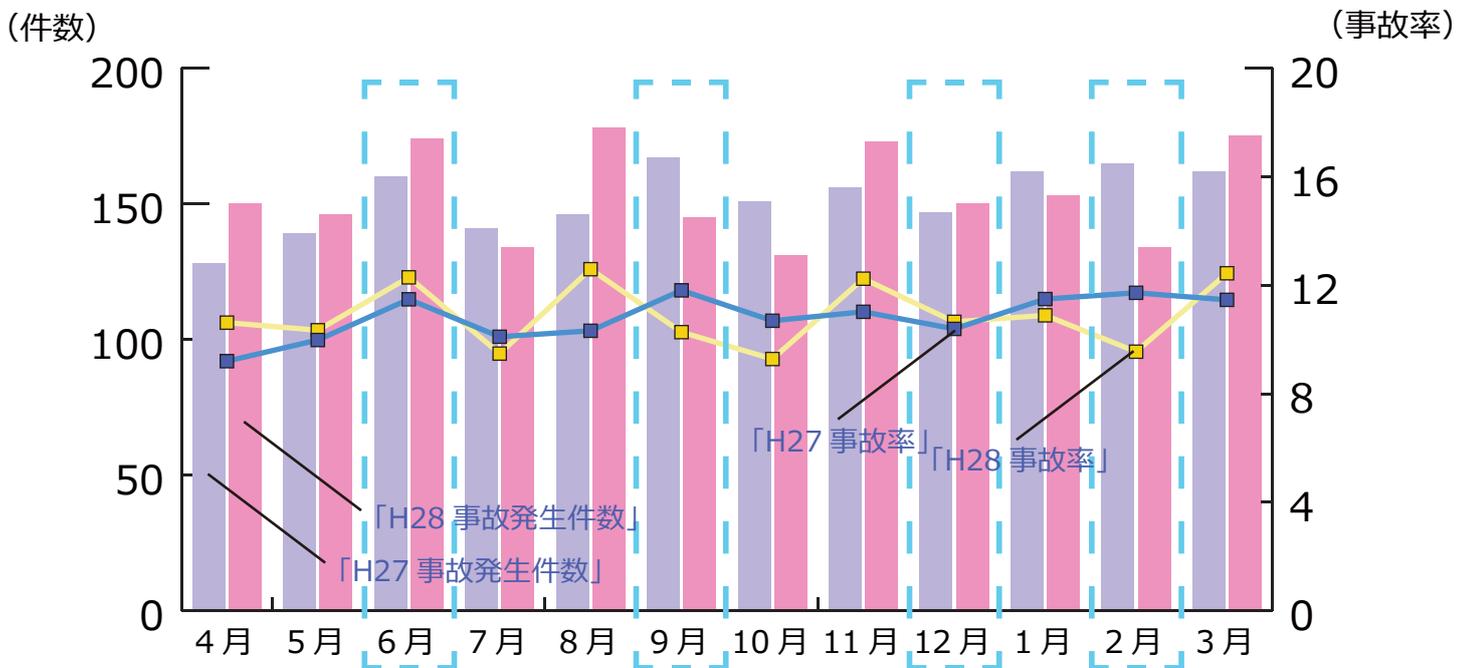
7. 平成28年度交通事故防止強化月の事故発生状況

平成27年度の事故多発月であった6月、9月、12月、2月の4か月間を交通事故防止強化月に設定し、運転者講習会の開催、事故防止機器の利用促進、安全情報の配信などに取り組み事故防止を推進しました。

(1) 事故発生件数・事故率

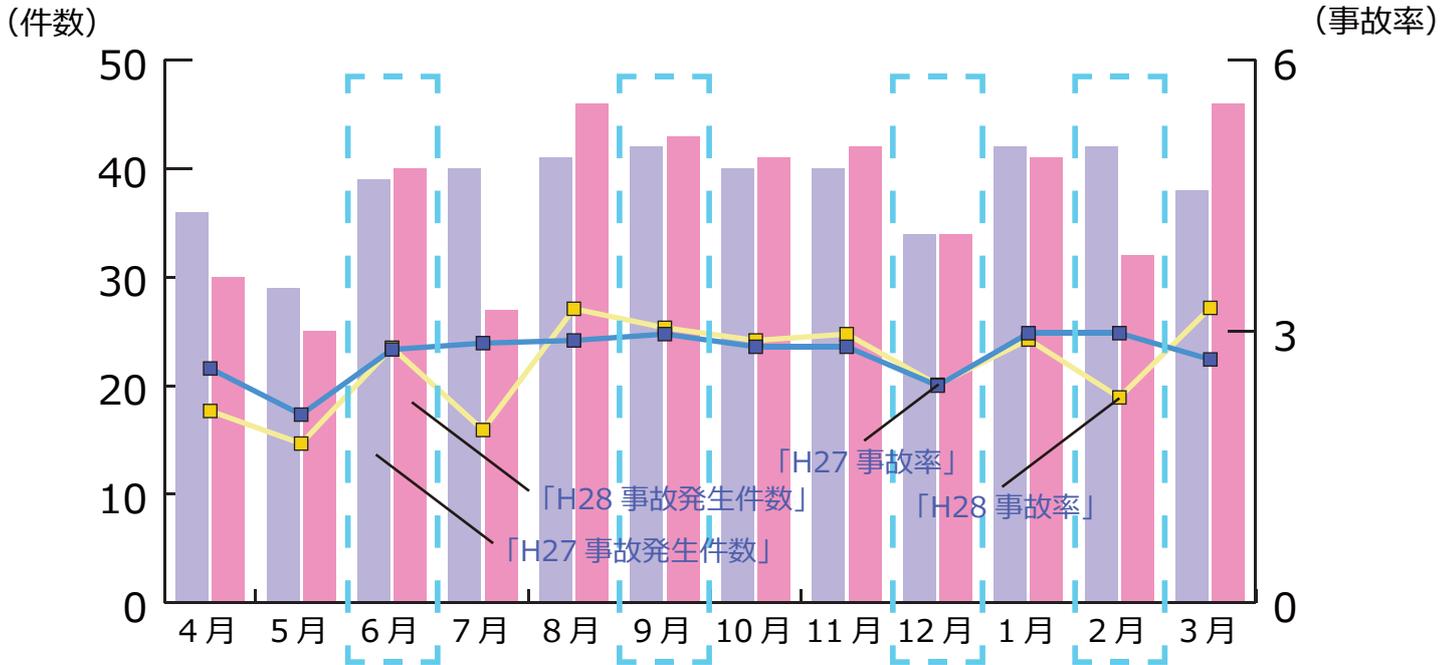
① 全事故

交通事故防止強化月の6月、12月は増加したものの、9月、2月は減少しました。

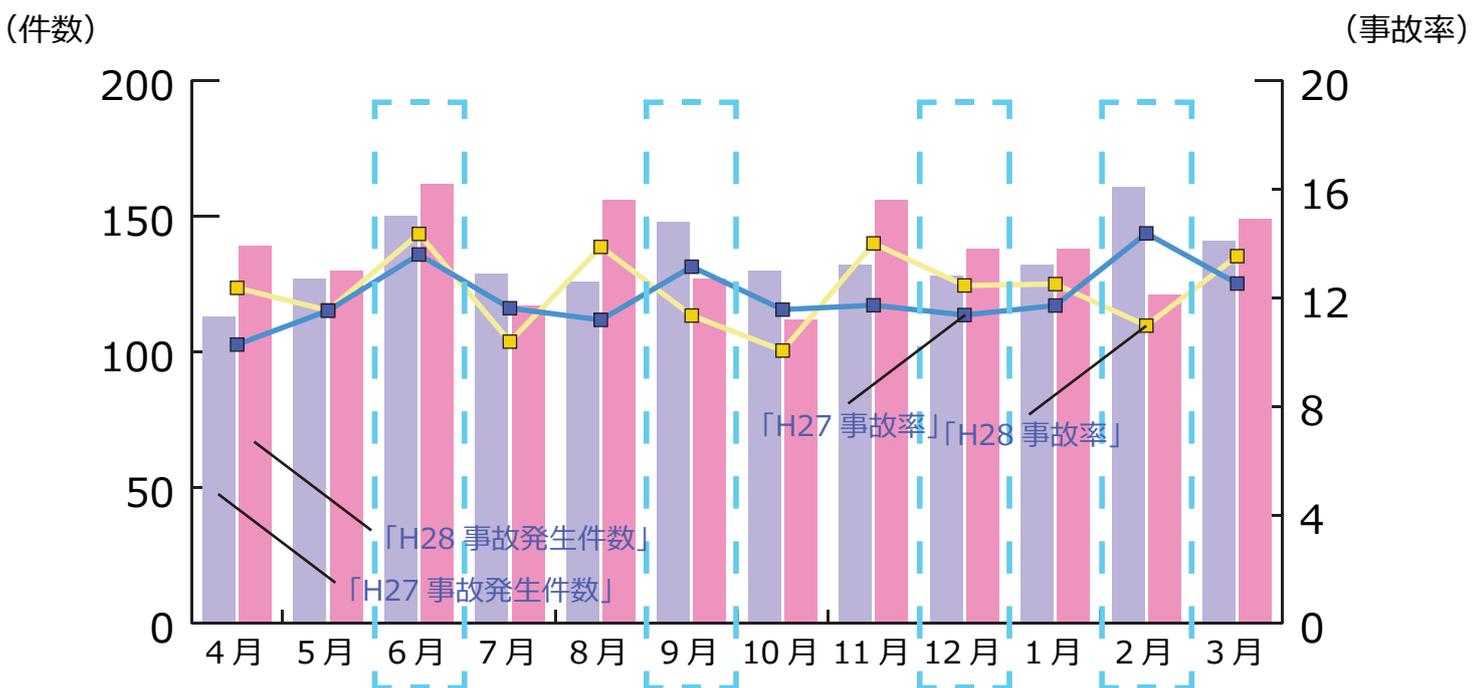


交通事故防止強化月 6、9、12、2月

② 対人共済

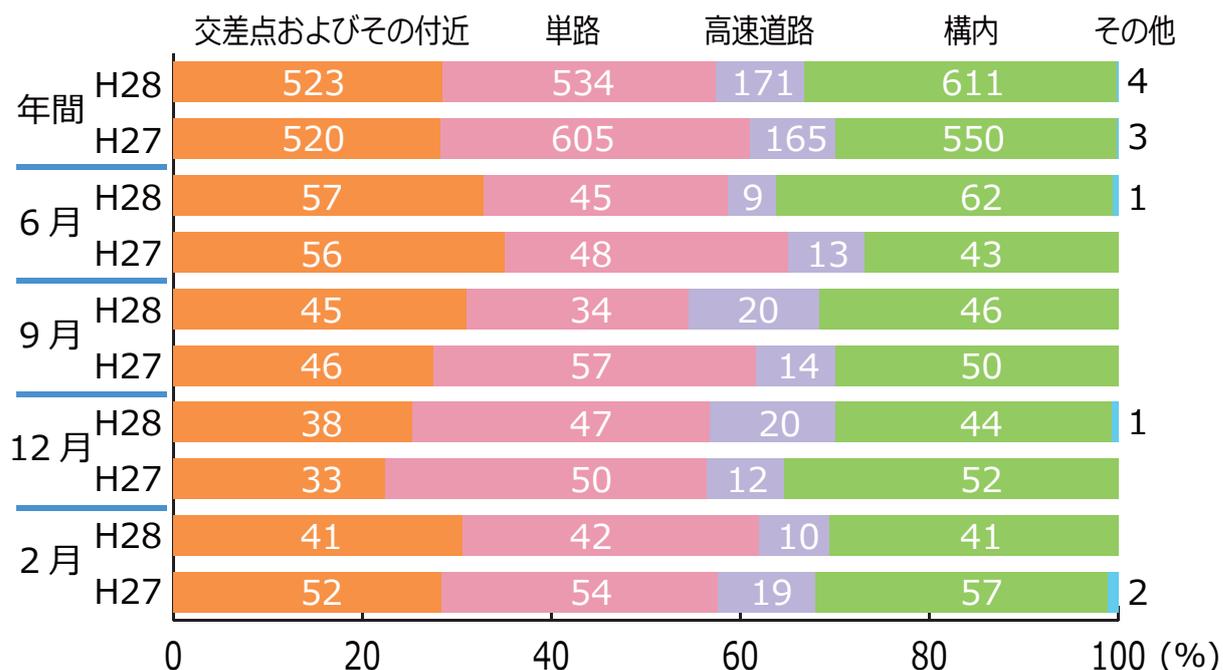


③ 対物共済



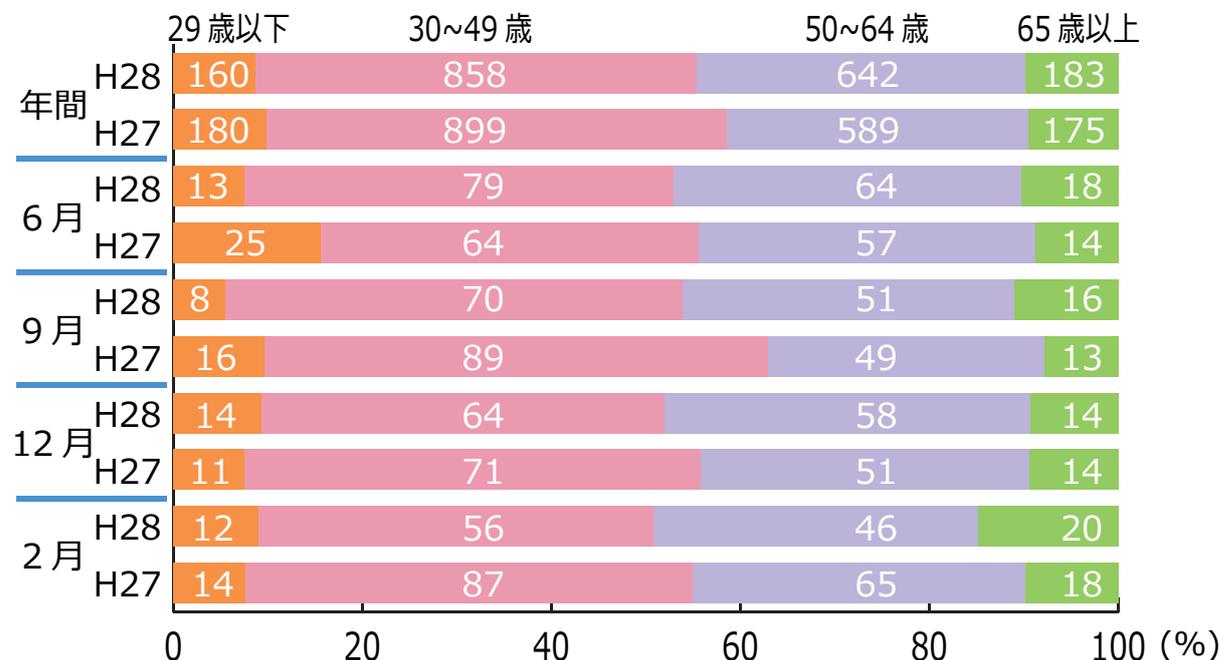
(2) 道路形状別事故発生件数（全事故）

道路形状別では、前年度と比べ単路では各強化月とも減少したものの、他の道路形状では、増加、減少の波がありました。



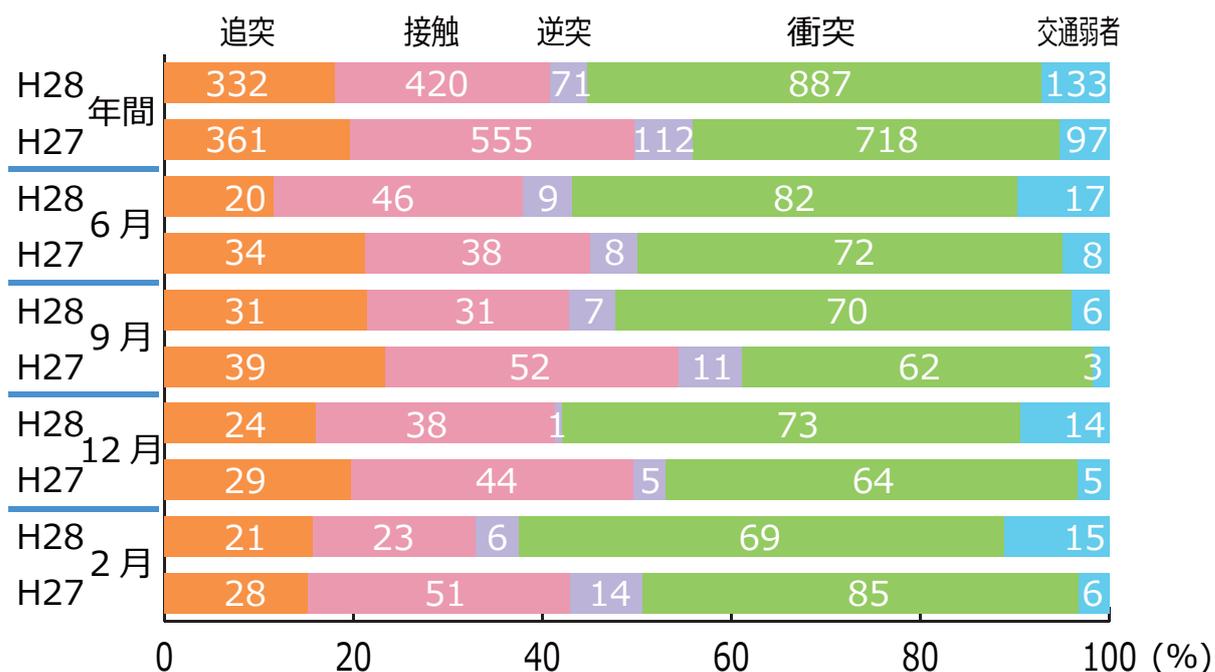
(3) 運転者年齢層別事故発生件数（全事故）

運転者年齢層別では、50歳以上の運転者において、増加の傾向を示すとともに、特に65歳以上の運転者では前年度と比べ12月を除いて増加となりました。



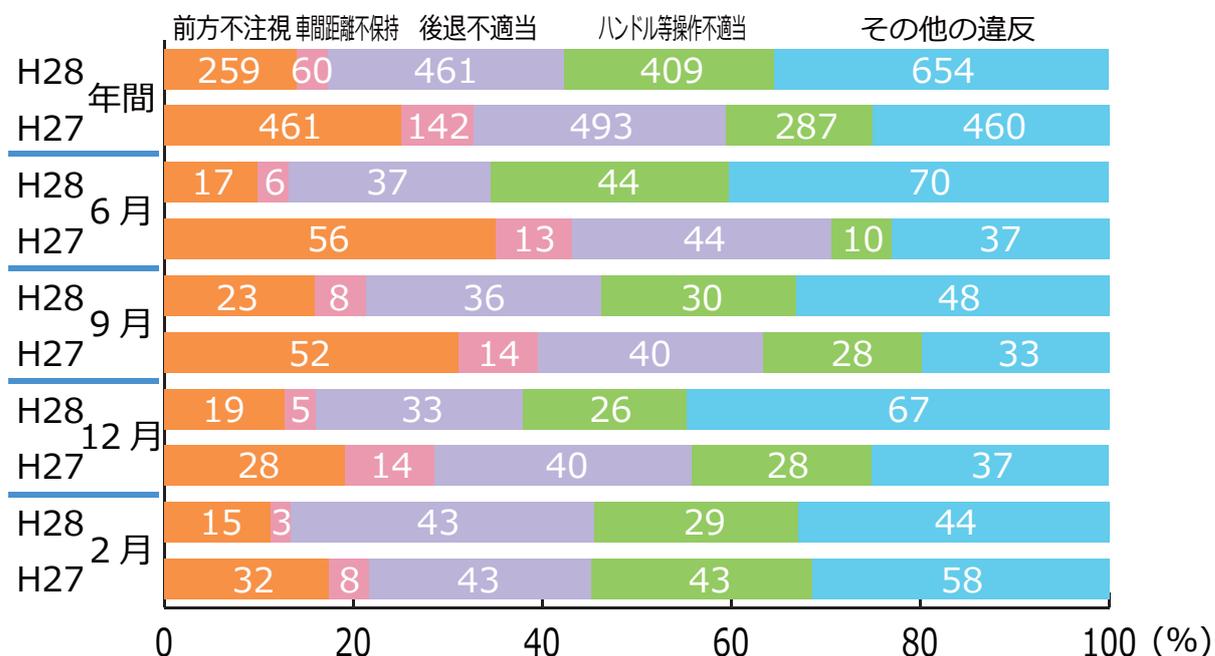
(4) 類型別事故発生件数（全事故）

類型別では、交通弱者との事故は全ての月で増加しました。また追突・逆突は前年度と比べ減少しました。



(5) 原因別事故発生件数（全事故）

原因別では、特に前年度と比べ前方不注視と車間距離不保持は減少しましたが、安全運転義務違反は増加しました。



8. 交協連傘下15組合の平成28年度事故発生状況

交協連（全国トラック交通共済協同組合連合会）は、全国15のトラック交通共済協同組合を会員とする団体です。

(1) 事故発生状況（対人・対物事故）

事故発生件数においては、15組合平均より対人6件増、対物359件減ですが、事故率は対人・対物共に平均値を上回っています。

区分		神奈川	15組合合計	15組合平均	神奈川の割合
共済種目別		(件)	(件)	(件)	(%)
対人	発生件数(件)	447	6,615	441	6.8
	死者数(人)	7	126	8.4	5.6
	傷者数(人)	592	8,696	588	6.8
	100両当りの事故件数	2.64	—	2.12	0.52(平均との差)
対物	発生件数(件)	1,645	30,064	2,004	5.5
	100両当りの事故件数	12.32	—	10.75	1.57(平均との差)

(2) 原因別事故発生状況（対人事故）

安全運転義務違反、交差点安全進行違反の構成比が15組合と比べ高くなっています。ブレーキなどの操作ミスや交差点での安全確認の不足によるものです。

区分	神奈川	神奈川の構成比	15組合合計	15組合の構成比
事故原因別	(件)	(%)	(件)	(%)
前方不注視	176	39.4	2,963	44.8
車間距離不保持	40	8.9	711	10.7
後退不適當	20	4.5	296	4.5
ハンドル等操作不適當	54	12.1	685	10.4
徐行違反			13	0.2
左折違反	3	0.7	159	2.4
右折違反			140	2.1
一時停止違反	1	0.2	39	0.6
最高速度違反			3	0.05
優先通行違反			15	0.2
追い越し違反			58	0.9
横断(転回)違反			17	0.3
信号無視	9	2.0	171	2.6
酒酔い・酒気帯び			6	0.09
安全運転義務違反(安全速度)	1	0.2	23	0.3
安全運転義務違反(その他)	60	13.4	588	8.9
交差点安全進行義務違反	61	13.6	573	8.7
不明・その他の違反	22	4.9	155	2.3
合計	447	100	6,615	100

(3) 類型別事故発生状況（対人事故）

停止中の車両への追突が15組合と比べ高く、前方不注視による認知・判断ミスによるものです。

区分		神奈川	神奈川の構成比	15 組合合計	15 組合の構成比
類型別		(件)	(%)	(件)	(%)
車両	追突（走行中）	21	4.7	604	9.1
	追突（停止中）	212	47.4	2,613	39.5
	正面衝突	1	0.2	102	1.5
	側面衝突	11	2.5	549	8.3
	接 触	77	17.2	1,280	19.3
	その他	54	12.1	375	5.7
	小 計	376	84.1	5,523	83.5
	（うち 自動二輪・原付）	48	10.7	501	7.6
歩行者	30	6.7	339	5.1	
自転車	39	8.7	632	9.6	
単独（その他）	2	0.4	121	1.8	
合 計	447	100	6,615	100	

(4) 運転者年齢層別事故発生状況（対人事故）

運転者の年齢層は、15組合全体を通して50歳以上が40%を占めています。

区分	神奈川	神奈川の構成比	15 組合合計	15 組合の構成比
年 齢	(件)	(%)	(件)	(%)
20 歳未満	4	0.9	82	1.2
20~24 歳	26	5.8	240	3.6
25~29 歳	22	4.9	366	5.5
30~34 歳	20	4.5	510	7.7
35~39 歳	45	10.1	623	9.4
40~44 歳	62	13.9	927	14.0
45~49 歳	84	18.8	1,065	16.1
50 歳以上	184	41.2	2,802	42.4
合 計	447	100	6,615	100

（引用：平成 28 年度 交通共済統計年報データ）



〒222-8582 横浜市港北区新横浜二丁目13番地4
神奈川県自動車交通共済協同組合
TEL.045-475-2134 FAX.045-475-2144
E-mail:infobox@shinkokyo.or.jp
HP:http://shinkokyo.or.jp